

BLS全職員研修の取組み（行動目標6）



社会福祉法人 康和会 久我山病院
西田 志津子・吉 紀三・中澤 直・武田 春子

久我山病院では、BLSを確実に行うことが出来るスキルを身につけると共に、2次救急病院の職員であることの意識と自覚を持つことを目的として、院内の全職員に対するBLSの研修実施に取り組んでいる。

研修プログラムを実施するにあたっての企画、準備内容と共に、実施効果について発表する。

BLS研修の目的

下記4点を実現することを目的として研修を位置づけた

- ◆ 目の前で倒れている人を発見した場合の救命処置が行える
- ◆ 急性期医療を展開する病院職員として創造性を養う
- ◆ 病院職員として、救急医療に関する知識と技術を深める
- ◆ 医療職としての社会的使命の自覚を持つ

病院概要

東京都指定二次救急病院

入院病床：199床

診療科目：

内科・外科・脳外科・整形外科・
小児科・産婦人科・皮膚科・泌尿
器科・耳鼻咽喉科・眼科・アレルギー科・放射線科

康和会の連携施設として、特別養護老人ホーム・老人保健施設・訪問看護ステーションを隣接する地域病院として地域貢献を目指す



世田谷区は東京23区 人口の多い地域ながら、区内の救急告示医療機関は乏しい。

杉並区(人口540,342)の救急告示医療機関は7施設(1施設/77,191)



世田谷区と同じ医療圏である・・・

目黒区(人口268,615) 救急告示医療機関は9施設(1施設/29,846)
渋谷区(人口202,880) 救急告示医療機関は7施設(1施設/28,982)



研修実施までのステップ

1st Step インストラクター育成のための準備

救急分野における経験豊富な看護師（リーダース）の入職【2009年度】

リーダースによる研修実施計画の作成

救急に携わる外来看護師、臨床工学士が外部のACLS研修を受講。

研修の必要性を理解すると共に、計画の推進チームを結成。



2nd Step インストラクター育成

救急委員会で研修企画を提案 ⇒ 病院幹部会での承認

各部署からインストラクター候補を募集し、救急委員会主催でのインストラクター育成研修を実施

全8回コースの研修を実施（7月～9月上旬）

内容：BLSの必要性の理解・BLS手技の習得
プレゼンテーション技術の習得

専門職だけではなく事務一般職も参加



3rd Step 全職員への告知

研修スケジュールを組み、部署の偏りがないような受講者配置を工夫した

研修内容

インストラクター3名、受講者12名の構成で毎週2回実施

少人数の実施でねらった効果

参加者全員がいろいろな立場でのシミュレーションに参加出来るようにする

わからないことはすぐに質問出来るような雰囲気作り

和気あいあいとした雰囲気で楽しみながらもBLSの理解を深めることが出来る

BLS全職員研修の結果

参加者からのコメント

わかっているつもりと出来ることは違う

昔習ったことと変わってきている

また参加したい（一度では憶えられないので）

インストラクター同士で研修を通した顔の見えるつながり

⇒他の日常の仕事にも良い影響

BLSの手技も自信をもって行えるようになった

緊急時の対応（E-Call）も含めて周知徹底

考察・今後の展開

全職種がBLSを確実に実施できることは患者にとって有益・蘇生率の向上

⇒ 二次救急病院としての**価値向上**

康和会の隣接施設でもBLS研修実施

二次救命処置の研修

⇒ 救急対応の**質の向上**

患者の安全確保

職員の**スキルとモチベーションの向上**

BLS全職員研修の風景

BLSインストラクターの育成

(c) 久我山病院

専門職だけでなく事務職も
研修受けてます



救急経験豊富な
リーダーナースが
教えてます



救急に対する意識向上



就業時間後に食堂にあつまって
育成プログラムを受けてます。



達成感！



全職員に対する教育

インドネシア看護師候補生も
必死に心臓マッサージ



AEDのパッドを...



息切れが...



コミュニケーションの
活性化

腕をしっかり
伸ばして！



看護部長自らBLSの大切さを
伝えてます！

